

# 放射線副読本について

平成 23 年 3 月 11 日に起きた地震と津波によって、東京電力の福島第一原子力発電所で事故が起こり、この事故により放出された放射性物質は、日本に大きな被害を与えました。

放射線についての科学的な理解を深め、福島第一原子力発電所からの距離の遠い・近いにかかわらず、ともに社会に生きる一員として、一人ひとりが事故を他人事とせず、真摯に向き合って、今後どのように対応し、課題を克服していくべきか考えられるよう、平成 26 年 3 月に文部科学省が「放射線副読本」を作成しました。

小学生のための放射線副読本～放射線について学ぼう～

中学生・高校生のための放射線副読本～放射線について考えよう～

この副読本では、福島県で起こった原子力発電所の事故のこと、事故によって多くの人が大きな被害を受け、今なお困難な状況にあること、さらに、地域の復興・再生や安全の確保に向けて懸命の努力が続けられていることなどについて紹介するとともに、その理解に必要な放射線に関する基礎知識や放射線からの身の守り方等を解説しています。

## 具体的な内容

放射線被ばくについての風評被害に関する緊急メッセージ

新聞報道等によりますと、原発事故のあった福島県からの避難者がホテルで宿泊を拒否されたり、・・・、小学生が避難先の小学校でいじめにあたりたとされております。

・・・、根拠のない思い込みや偏見で差別することは人権侵害につながります。

震災にあった人が、避難先で差別を受けたら、どんな気持ちになるでしょうか。

.....

(平成23年4月21日 法務省人権擁護局) (中学生・高校生 p5)



副読本に関する情報

平成26年3月 全小学校・中学校・高等学校へ児童生徒用を配付

文部科学省HPに掲載 [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shuppan/sonota/attach/1344729.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/attach/1344729.htm)

平成27年4月 全小学校・中学校・高等学校へ指導参考資料DVDを配付

(1) 事故のときに身をまもるには

放射性物質を体の外から受ける量を少なくするための方法は三つあります。一つは放射性物質からはなれること、もう一つは放射線を通しにくい建物の中に入ること、そして三つ目は放射線を受ける時間を短くすることです。

.....

なお、体の外から放射線を受けたことを原因として、人が放射線を出すようになることはありませんし、かぜのように人から人にうつることもありません。

(小学生 p13)

[問い合わせ先] 神奈川県教育委員会教育局支援部子ども教育支援課